

特  
集  
見  
聞

聞く！  
語る！

高校生へ魅力発信！

やまぐち建設産業業界研究セミナーを開催しました！

平成28年6月7日、山口県セミナーパーク、山口きらら博記念公園にて「やまぐち建設産業業界研究セミナー」を開催しました。  
(主催/山口県(一社)山口県建設業協会、後援/山口県教育委員会、山口県工業教育研究会、山口県地域を支える建設産業担い手確保・育成協議会)

このセミナーは、県内で土木建築を学ぶ高校生に、地域の社会インフラを支え、災害から住民を守る地元の建設業の役割を理解してもらい、山口県の建設産業をよりよく知ってもらうことを目的に行われたもので、岩国工業高等学校都市工学科1・2年生70名、徳山商工高等学校環境システム科3年生19名、山口農業高等学校2年生40名の3校合計129名及び業界関係者約30人と総勢約160名が参加しました。

まずはじめに、セミナーパークにおいて東日本大震災で被災した仙台市内の復旧・復興作業で陣頭指揮を執った(一社)仙台建設業協会副会長の深松努さん(株)深松組代表)による「東日本大震災現場からの証言 復興に向けての課題と提言」と題した講演が行われました。

深松さんは、現場での対応や課題などに触れ、地域建設産業が果

深松努さん((一社)仙台建設業協会副会長)



たず役割や重要性などについて語られ「報道などでは取り上げられないが、自衛隊などとともに震災直後から作業にあたったのが建設作業員。道路を切り開かなければ人命捜索も出来ない」と、道路啓開をはじめとしたインフラの復旧や重機・作業員の確保、燃料・食料不足対策、人命捜索などの経験を披露。全国的に建設従事者の人材不足の中で「地域を守る建設業者の確保をしなければならぬ」と、その必要性を強調されました。また「緊急時には情報が錯綜するので普段から行政と連携し、ワンストップの指令体制の確立が不可欠」と指摘され、山口での大災害を想定した備えの重要性を力説されました。最後に、参加した高校生に対し、「災害が発生したら、地域を復旧させることができるのは土木や建築の技術を学んだ皆さんしかいない。是非、建設業界に入ってほしい。」と熱いメッセージで締めくくられました。

次にセミナーパーク内の体育館に会場を移し、(一社)山口県建設業協会、山口県鳶工業連合会、山口県鉄筋工業協同組合、やまぐち建設21の会の4つの参加団体がブースを設け、高校生側は少数のグループに分かれて参加しました。「厳しいというイメージで敬遠されがち」な建設業のやりがいなどについて、各団体とも映像や資料などを通じて説明を行いました。  
(一社)山口県建設業協会は、山口県土木建築部が作成したDVD「新たな建設業・未来をつくる君たちへ」(本協会及び会員企業が協力)と国土交通省が作成したDVD「建設現場へGO!」2本の上映会を行い、また協会広報誌ビラーや建設業界ガイドブック等の配布コーナーも設置しました。山口県鳶工業連合会(会長・栗柄龍男)は鳶の歴史をパネルやDVDを使って紹介、実際に足場を組んだ高所体験コーナーも設置しました。やまぐち建設21の会(代表・高山正樹)は若手経営者の有志の会として、建設業の役割や仕組みを高山代表自らがプレゼンテーションしました。山口県鉄筋工業協同組合



(理事長・宮本ゆり子)はDVD上映のほか技能士による鉄筋組立等の作業実演や生徒への体験コーナーを設置しました。  
参加者の声として、「授業では教わらない具体的な建設業の仕事を知ることができ、とても新鮮だった」と山口農業高校環境科学科2年の加藤智樹くん。他の生徒さんも各団体の担当者の説明を熱心に聴き入っている姿が印象的でした。  
最後は、「山口きらら博」にあり建設されたきらら博記念公園を見学。当時の建設の状況などを説明し実際の建設の仕事について理解を深めてもらいました。生徒さんたちにセミナーに参加した感想を伺うと「自分のやりたい仕事のイメージがわいた」「建設業に対して意識が変わった」「目指す道を確認した」などの声を聞くことができました。  
今後も県内で土木建築を学ぶ人たちに山口県の建設業を理解してもらえような情報の発信をしていきます。



加藤智樹くん

